

公益社団法人 北海道臨床工学技士会ニュース



No.157

ホームページ <http://hcea.umin.ac.jp>

事務局へのお問い合わせは上記 Homepage お問い合わせフォームより

発行人:大宮 裕樹

〒062-0931

北海道札幌市豊平区平岸1条6丁目 3-40

KKR 札幌医療センター

診療技術部 臨床工学科

TEL 011-822-1811

年頭所感 2021

年頭にあたり謹んでご挨拶を申し上げます。

まずは、新型コロナウイルス感染症 (COVID-19) へのご対応に、医療従事者および関係者の皆さまには感染対策や治療現場での活躍に敬意を表したいと思います。

2020年に入り北海道が全国でも早期に COVID-19 感染拡大が確認され、長期の緊急事態宣言や不要不急の行動制限によりこの一年多くの自粛が強いられ、特に医療に従事する私たちの生活は責任のもと厳しく制限されているかと思えます。感染拡大の終息はまだ見通せない中、新しいスタイルの生活や社会に順応しこの未曾有の世界的な大災害を乗り越えなければなりません。今年は昨年延期された東京オリンピック・パラリンピック開催予定となっています。その頃にはワクチン開発により感染拡大が制御され安心して世界の人が日本へ渡航できていることを切に祈っております。

さて、われわれ臨床工学技士は医療機器と患者さんを安全に結ぶ専門職としてあらゆる場面で活躍しております。今年は働き方改革により医療職のタスクシフト・タスクシェアが検討され臨床工学技士の業務が変わろうとしており、新たな職域へ進もうとしています。日本臨床工学技士会や地方臨床工学技士会と連携し未来の臨床工学技士のために我々の職能が発展できるよう多方面に活動を発信すること、臨床工学技士一人一人のつながりを強化し組織力を高めることが必要となります。

当会の研修会などの事業については、webを利用した形やハイブリット型の開催により今までより参加しやすく多くの人に出席していただけるようコンテンツを検討したいと思います。昨年から導入されました支部制を活用して情報の共有と当会事業の充実を図ってまいりますので皆様のご協力よろしくお願いいたします。

昨年は2つの人的支援対策ワーキンググループとwebセミナー推進ワーキンググループを立ち上げました。COVID-19感染による透析室運営支援に対する人的支援対策WGは道内関係6団体による支援システムの構築にご尽力していただき、実際の臨床工学技士の施設支援調整もしていただきました。支援者として登録していただきました多くの皆さまに感謝申し上げます。webセミナー推進WGは今年度予定していたセミナーと2021年2月に開催する第31回北海道臨床工学会の中心的なスタッフとして活動していただいております。年内はwebでの開催が求められるかと思えます。継続してwebの利点を生かして皆様への情報提供やコミュニケーションの新しいツールとして還元できればと思います。

「今できることを全力で!!」COVID-19感染拡大防止のため制限は多々ありますが、この期間だからこそできることもあります。今まで気づけなかったことが新たに増えてくることもあります。一発逆転はありませんので地道な努力と人とのつながりを大事にしてこの局面をみんなで乗り越えましょう。

公益社団法人 北海道臨床工学技士会
会長 大宮裕樹

公益社団法人 北海道臨床工学技士会ニュース—目次—No.157

年頭所感	1
第31回北海道臨床工学会開催のお知らせ	2
第6期内部理事就任挨拶、北海道医療新聞に掲載されました	3
道北臨床工学会学術セミナー開催、第11回北海道呼吸療法セミナー開催	4
RM ニュース	5
人的支援対策ワーキンググループより	6
がんばれ！フレッシュャーズ	7
第30回日本臨床工学技士会 BPA 受賞	8
理事会からのお知らせ、1月からの予定	8
医療事故情報収集等事業医療安全情報	9
メーリングリスト参加登録のお願い	10
メディカルオンライン学会誌無料閲覧サービスのご案内	10

第31回北海道臨床工学会開催のご案内

■ 学会長	大宮 裕樹 (KKR 札幌医療センター)
■ 学会事務局長	加藤 敏史 (石狩病院)
■ 会 期	2021年2月21日(日)
■ 主 催	公益社団法人北海道臨床工学技士会
■ 会 場	Zoomを使用したweb Live 開催
■ 参加費	¥1,000 (クレジットカード決済)
■ 参加申込期限	2021年2月8日(月) 17:00まで (当日受付はありません)
■ 演題登録期間	2020年11月12日(木)で締切済み
■ 会誌投稿締切	2021年3月1日(月)

事前申込
受付中

延期となっております「第31回 北海道臨床工学会」は、上記の内容で開催することとなりました。演題登録は既に締め切りとなっております。採択演題は、北海道臨床工学会会員専用ページに掲載しております。参加受付は、事前申し込みのみ(2021年2月8日(月) 17:00まで)となっておりますので、下記の専用ページよりお早めにお申し込みください。

「第31回 北海道臨床工学会」専用HP：<https://hcea.hkdo.jp/>



最善の準備を行うよう努力してまいりますので、ご理解・ご支援のほど何卒よろしく願いいたします。

演者の皆様へ投稿原稿提出についてのお願い

今回、発表される一般演題を会誌に掲載いたします。掲載を希望される方は、「投稿・執筆規程」(2018年10月改訂版)に従い、下記の期日までに、「自己申告によるCOI及び二重投稿に関する申告書」と「原稿提出時のチェックリスト」を添えて投稿原稿を提出してください。提出はメールでお願い致します。後日、演者の皆様には広報委員会(下記メールアドレス)より案内を送らせていただきます。

編集用に用意しているパソコン(Windows)には、MicrosoftのWord2010とPower Point2010に対応できるようにしています。原稿にはWord、図表にはPower Pointを用い、上記環境にて正常に動作するデータでお送りください。また、図表は白黒に修正してからお送りください。

なお、公益社団法人北海道臨床工学技士会誌は、現在ISSN、医学中央雑誌、メディカルオンラインに登録しております。今回発表される内容を他学会にて全く同じ内容で論文投稿の予定がある場合は二重投稿とみなされますので、注意をお願い致します。

締め切り期日：2021年3月1日(月) 必着

原稿送付先：〒070-8610 北海道旭川市金星町1丁目1-65 市立旭川病院 臨床工学室

澤崎 史明 <Sawasaki Fumiaki>

Mail: f_sawasaki@city.asahikawa.hokkaido.jp

投稿・執筆規程等の詳細はQRコードのリンクを参照ください



第6期 内部理事就任挨拶

今回、第6期北海道臨床工学技士会内部理事選挙において、内部理事に任命された JR 札幌病院 臨床工学室の浦崎伸吾理事から就任のご挨拶を頂きましたので掲載いたします

この度、第6期北海道臨床工学技士会内部理事に就任いたしました JR 札幌病院 臨床工学室の浦崎 伸吾です。

会員の皆様におかれましては、COVID-19 感染拡大など大変厳しい中、地域の医療体制を守るため日々奮闘しておられることと思います。

諸先輩方が築き上げた（公益）北海道臨床工学技士会を継承しつつ、更なる発展のため、会員皆様のお力を借りながら、微力ながら全力で尽くしてまいります。

皆様のご協力と、引き続きご指導賜りますようお願い申し上げます。



JR 札幌病院 臨床工学室
浦崎 伸吾

北海道医療新聞に掲載されました

令和2年11月6日発行の北海道医療新聞『専門職に聞く』において、大宮会長の記事が掲載されました。

記事には新型コロナウイルスが拡大し、活動に様々な制限が生じる中での技士会の現状と展望について書かれていました。現状として、活動が制限される中、導入された支部制を活用しワーキ

ンググループを作成、Webセミナーを開催し地方の会員が1人でも多く参加できるよう支援したり、災害情報の共有体制の構築を進めていること、また、働き方改革によるタスクシフトにより、医師の行っていた業務の一部を技士が担うことが増えており、『これまで以上の知識や技術が求められる中で、今回のWeb活用の経験を生かし、各種専門技能の認定取得を推し進め、技士の職域拡大と質の向上につなげていきたい』と今後の展望を語られました。

広報 小玉

The collage includes several articles:

- 専門職に聞く** (Special Interview): An article featuring a portrait of a man in a white lab coat, likely related to the association's members.
- 支部活動 本格化へ** (Branch Activities Intensify): An article discussing the implementation of a branch system to improve disaster information sharing.
- 災害情報の共有体制を構築** (Building a Disaster Information Sharing System): A detailed article about the association's efforts to create a shared disaster information system.
- コメディカル** (Comedical): A vertical article on the right side of the collage.

令和2年11月6日 北海道医療新聞掲載記事

記事の詳細は技士会のホームページで閲覧できます。→



道北支部

道北臨床工学会学術セミナー

Web 開催

2020年11月5日(木)に道北臨床工学会学術セミナーが開催されました。

今回、支部制が導入されてから初めての道北支部主催のセミナーで、旭川市内の会場で開催される予定で調整をしておりましたが、旭川市内のCOVID-19の感染状況を鑑みて、webセミナーによる配信へ変更し開催いたしました。

その際、演者が同じ会場に集まることの無いように配信会場を二カ所設けて、感染対策を徹底し、密を避ける形式を取り入れました。セミナー開催直前の変更となり、座長、演者の皆様や会員の皆様には多大なご迷惑をお掛けしたことを深くお詫び申し上げます。

第一部では、旭川赤十字病院 副院長 小林 巖先生から「災害時における臨床工学技士の可能性～医師の立場から～」と題してご講演いただきました。講演の内容としては、現在猛威を振っているCOVID-19の基本的な情報について改めて説明していただきました。

続いて、旭川地区におけるCOVID-19の対応策の説明や、感染状況に応じた各ステージ別の対応に関して詳細に説明していただき、災害が発生した際に、どのような指揮系統で行動し、各役割を

様々な職種のスタッフが専門性を活かし行動できるかを、旭川赤十字病院の取り組みを例に挙げて紹介されていました。災害時に臨床工学技士に期待できる事として、医療機器の適切な運用や医療機器メーカーとの連携、広域災害救急医療情報システムの情報入力などがあり、常日頃から有事の際に期待に応えられるよう備えておくことが肝要であると感じました。

第二部では、「各施設のコロナ感染対策」と題して旭川市内の五施設のCOVID-19対応についてご講演いただきました。実際に、COVID-19陽性患者を受け入れて、人工呼吸器使用に関する現状報告や、血液透析を必要とする患者に対する対応についてご報告していただきました。また、今後COVID-19陽性患者を受け入れる際の体制について、手術室業務関連の視点、透析クリニックにおける感染制御の視点からご講演いただきました。

血液透析を必要とするCOVID-19陽性患者に対して、給水設備が無い中、RO水をタンクに溜めて、運搬し隔離病棟で血液透析を実施した症例報告が印象的でした。

本セミナーでは、旭川地区におけるCOVID-19感染対策の現状について、様々な視点の演者から分かり易く紹介していただきました。ご多忙の中ご講演頂いた先生の皆様、参加された皆様にご場をお借りして感謝申し上げます。

第11回

北海道呼吸療法セミナー開催

令和2年11月29日(日)、第11回北海道呼吸療法セミナーが開催されました。本セミナーはCOVID-19による感染拡大防止のため、ZOOMを用いたWEBセミナーとして開催されました。

セミナーでは4つの教育講演が行われ、神戸市立医療センター中央市民病院の石橋一馬先生からは「うまくいくNPPV 失敗するNPPV」、東京医科歯科大学附属病院の倉島直樹先生からは「COVID-19における臨床工学技士の役割」、



旭川赤十字病院 小林巖先生

◆RM ニュース◆

<透析中事故で患者死亡

病院が200万円賠償へ>

SUBARU 健康保険組合太田記念病院の奈良岳志先生からは「ICU/CCU における Nasal High Flow Therapy の有用性」、帯広厚生病院の平賀友章先生からは「COVID-19 患者の人工呼吸器対応～当院での対応～」として、それぞれご講演いただきました。NPPV やハイフローセラピーについては幅広く実践的な事柄について、COVID-19 関連においては、臨床工学技士の業務として人工呼吸器や ECMO などの管理について、大変わかりやすくお話ししていただきました。また、講演後の質疑応答は受講者からのチャットによる質問に対して回答する形式で行われました。

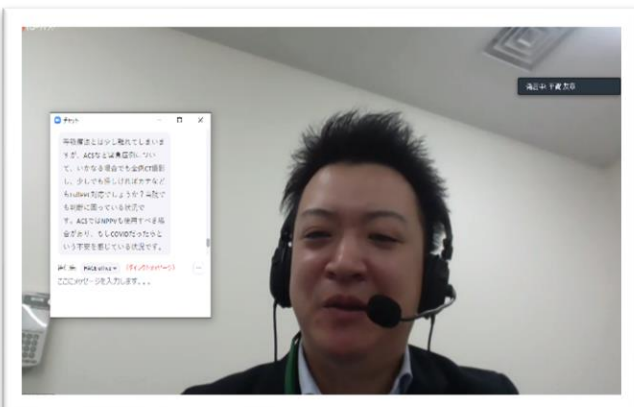
新型コロナ禍の状況で WEB によるセミナーや講演会の機会が増えていますが、遠くの地域から参加する場合、移動にかかる時間や費用が節約でき、参加しやすくなりました。

今後もこのような形で開催できれば、より広範囲の地域、より多くの施設に貴重な情報を提供できると感じました。

なお、本セミナーは 3 学会合同呼吸療法認定士更新ポイント 25 点と、日本臨床工学技士会呼吸療法専門臨床工学技士のポイント 8 単位が取得でき、セミナー終了後に各受講者宛に受講終了証が郵送で送られました。

最後に今回、ご多忙の中ご講演いただいた先生方、座長の労をお取りいただいた先生方に深く感謝申し上げます。

広報 本手



チャットでの質問に回答する平賀友章先生

高知県四万十市の病院で 5 月、同市内の男性 (86) が透析治療中に、出血性ショックで死亡していたことが分かった。病院側は「医療行為に重大な過失があったとは考えていない。ただ予見可能性がなかったとは言い切れず、一定責任はある」として遺族に謝罪。和解金として 200 万円を支払う。同病院によると、男性は 5 年以上前から、同病院で透析治療を受けてきた。5 月 18 日、男性は午前 9 時 20 分ごろ大部屋の端のベッドで治療を始めた。浄化した血液を体内に戻す針のチューブは通常、引っ張られても簡単に抜けないよう一部をたるませ、上腕部に固定する。ただ男性は上腕部での固定を嫌がり治療時には毎回、チューブを手で握っていた。また、この日は防寒のため、毛布をかけて透析を受けた。看護師は 1 時間に 1 回、血圧を測定。同 11 時 20 分ごろには、腕に針は刺さっており、男性が体調不良を訴えることもなかったが、同 11 時 44 分に透析装置の警報が作動。毛布を外して確認すると針が抜けかけており、ベッドや床に血が流れていたという。男性は既に呼吸停止状態で医師らが救命処置を行ったが、午後 1 時 10 分に死亡が確認された。男性は首の痛みを訴えてベッドに座るなどしており、何らかの理由で腕に針を固定するテープが緩んだとみられるという。

同病院は、毛布をかぶっていたことで発見が遅れた可能性があるなどとして遺族に謝罪。院長は「二度とこのような事故が起こらないよう改善策をとり、安心安全の医療に努める」とし、現在は上腕部にチューブを固定するよう徹底し、腕も常時見えるようにしたという。

事故は、16 日に開かれた市議会 9 月定例会で市長が報告。遺族に 200 万円を支払う和解議案を追加提出した。

2020 年 9 月 23 日 (水) 高知新聞配信

新設! 「人的支援対策ワーキンググループ」より
事業内容のご説明とご協力のお願い

「人的支援対策ワーキンググループ」は、2020年7月末に理事会承認を得て、同年8月末より活動を開始し、9月に事業計画が受理された新設ワーキンググループの一つです。

現状から、対面会議が一度もなく、WEB会議システムなどを利用した新スタイルにて精力的に活動をしています。その活動は、以下のとおりです。

<活動方針>

1. 人的支援システムの構築
2. 支援者募集と登録
3. 感染防護などの教育

の3本柱とさせていただきました。

<活動概要>

・関係団体との協力

(札幌市透析医会、北海道透析医会、北海道透析療法学会、北海道透析看護認定看護師会、北海道DLN連絡協議会、COVID-19透析スタッフ支援事業本部、北海道庁など)

- ・支援者登録の促進とデータベース管理
- ・支援者の派遣シフト調整
- ・概略図を含む帳票作成
- ・関係資料などの広報

<支援活動報告>

第1回目 令和2年10月5日から10月10日
(交代で7名が参加)

第2回目 令和2年11月12日
(3名参加)

第3回目 令和2年11月28日から12月5日
(交代で2名が参加)

第4回目 令和2年11月30日から翌年1月12日予定
(交代で19名が参加中)

現段階において重要なのは、

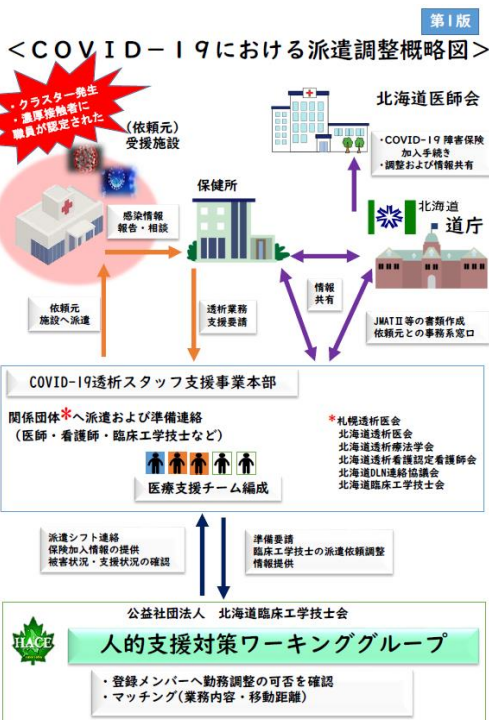
各ご施設や北海道の医療提供体制を守るために、

隣接地域の医療職による「お互いの助け合い」と

考えております。つきましては、皆様の支援者登録(任意)をいただき、臨床工学技士が透析医療の維持へ貢献できるよう、ご協力をお願いいたします。

関連する文書などは、公益社団法人北海道臨床工学技士会のホームページへ掲載しています。

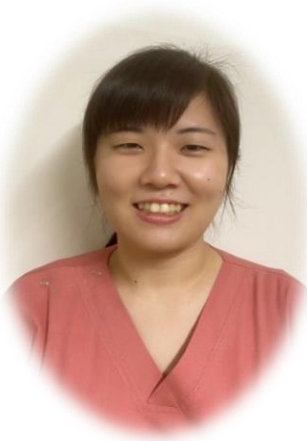
http://hcea.umin.ac.jp/official/human_support_wg.html



頑張れ！フレッジャーズ

このコーナーは、2019年度の卒業生で北海道臨床工学技士会より表彰を受けた道内臨床工学技士養成校の卒業生に、現在の状況や今後の抱負など熱い思いを語ってもらうコーナーです。

今回は、2020年3月に北海道科学大学を卒業し現在、函館五稜郭病院にて勤務中の浅野陽菜さんです。



函館五稜郭病院の浅野陽菜さん

私は、2020年3月に北海道科学大学 保健医療学部 臨床工学科を卒業し、4月から社会福祉法人 函館厚生院 函館五稜郭病院 臨床工学科に勤務しております。

当科では、透析業務や手術室業務、ME業務、心臓カテーテル業務、内視鏡業務など様々な業務に携わっており、私はME業務と手術室業務をそれぞれ2ヶ月間行い、現在は透析業務に携わらせて頂いています。

透析業務では、プライミングや時間チェック、返血、穿刺介助などを行っています。初めは先輩に確認して頂きながら行っていた業務も、最近では1人で任せて頂くことが増えてきました。そのため、社会人として自分自身の行動に責任を持ちながら働く必要があると日々強く感じています。

課題も多くあり、特に改善したいのが患者さんや先輩、上司とのコミュニケーションです。透析業務では、今後患者さんと多くの時間を過ごし、また穿刺など侵襲的な行為をすることもするため、安心して治療を受けて頂けるよう日々のコミュニケーションを通じ信頼関係を築いていくこと

がとても重要だと考えます。私は、時間チェックなどの際、体調や針先の痛みの確認など会話が定型文になってしまうことが多いため、患者さん一人ひとりの病態や性格に合わせた話し方をしたり、日常的な会話を通して些細な変化にも気づけるようになりたいです。

また、私は先輩や上司との会話の際、自信のなさから声が小さくなってしまっていることがあります。しかし、業務の中には患者さんの命に関わることもたくさんあるため、少しでも疑問に感じたことがあった時はすぐに先輩や上司に伝えるなど、報告・連絡・相談の徹底を常に心掛けたいです。

現在はまだ手技を覚えることに必死で視野が狭くなってしまったり、先輩からの指示を受けて行動することが多いですが、今後は自らの課題点を改善しながら、積極的に行動し多くの経験を積んだり知識面を向上させていくことで、できる業務を増やし質の高い医療に貢献していきたいです。そして患者さんに信頼されるような臨床工学技士を目指し一生懸命頑張ります。



遠藤太一さん 第30回日本臨床工学 BPA 受賞



遠藤太一さん（左）と BPA の賞状

去る 2020 年 9 月 29 日・30 日に行われた第 30 回日本臨床工学会において、時計台記念病院の遠藤太一さんが発表した演題「深層学習 (Long Short-Term Memory) を用いた人工呼吸器使用台数予測」は **BPA (Best Presentation Award) 優秀演題賞を受賞しました。**

本演題は、院内における人工呼吸器の利用台数を、院内データベースより大量のデータとして出力できる点と、気象庁の気象観測データと呼吸器疾患の関連に着目し、人工呼吸器の使用台数を予想する事を目的に深層学習を利用するシステム開発について研究発表したもので、遠藤さんの感性や才能、努力の結晶であったと思われます。

今回の受賞をさらに励みとし、さらなるご活躍を祈念いたします。



理事会からのお知らせ

現在の第 3 波と言える感染拡大の現状を鑑み、検討が必要な案件につきまして、書面理事会として開催し理事・監事により承認されました。

審議事項

- 議案 1 危機管理委員会 災害情報共有マニュアル改訂について
- 議案 2 財務委員会 会員名簿データベースソフト変更について
- 議案 3 人材活性委員会 委員長退任と新委員長就任について
- 議案 4 第 31 回北海道臨床工学会開催変更について
2021 年 2 月 21 日 (日) に web にて開催とする

1 月からの予定

下記に示すセミナー、学会等が開催されます。Web 開催の学会・セミナーも含まれていますので、この機会に参加してみたいかどうかでしょうか。

新型コロナウイルス感染拡大による中止や延期の可能性もありますので、詳細は公益社団法人 北海道臨床工学技士会ホームページまたは各記載の web サイトをご確認ください。

2021 年 1 月 26 (火)
北海道臨床工学技士会日胆支部講演会
Web 開催



http://hcea.umin.ac.jp/files/pdf/2020/nittan_shibu_web_seminar2020.pdf

2021 年 2 月 21 (日)
第 31 回北海道臨床工学会
Web 開催



http://hcea.umin.ac.jp/info_study/congress31.html

2021 年 5 月 22 日 (土) ~ 23 日 (日)
第 31 回日本臨床工学会
熊本城ホール



<http://jace31.com/>

医療事故情報収集等事業医療安全情報

(詳細は、日本医療機能評価機構のホームページをご覧ください)

医療事故情報収集等事業

公益財団法人 日本医療機能評価機構

医療安全情報 No.168 2020年11月

酸素ポンベの開栓の未確認

酸素ポンベを使用する際、バルブ(元栓)を開けていなかった事例が5件報告されています(集計期間:2016年1月1日~2020年9月30日)。この情報は、第61回報告書「事例紹介」(P.99)で取り上げた内容をもとに作成しました。

酸素ポンベの開栓を確認せず、患者に酸素を投与していなかった事例が報告されています。

酸素ポンベ使用時の確認の手順

事例発生した医療機関の取り組み

- 酸素ポンベ使用時は、バルブ(元栓)が開いていることを確認してから酸素の流量を調整する。

上記は一例です。施設に合った取り組みを検討してください。

取り組みのポイント

酸素ポンベ使用時は、①バルブ(元栓)、②圧力計、③流量設定ダイヤルを確認する。(総合評価部会)

※この医療安全情報は、医療事故情報収集等事業(厚生労働省補助事業)において収集された事例をもとに、本事業の一環として総合評価部会委員の意見に基づき、医療事故の発生予防、再発防止のために作成されたものです。本事業の趣旨等の詳細については、本事業ホームページをご覧ください。http://www.med-safe.jp/ ※この情報の作成にあたり、作成時における正確性については万全を期しておりますが、その内容を将来にわたり保証するものではありません。 ※この情報は、医療従事者の裁量を制限したり、医療従事者に義務や責任を課す目的で作成されたものではありません。

公益財団法人 日本医療機能評価機構 医療事故防止事業部
〒101-0061 東京都千代田区神田三崎町1-4-17 東洋ビル
電話: 03-5217-0252(直通) FAX: 03-5217-0253(直通)
http://www.med-safe.jp/

医療事故情報収集等事業

医療安全情報 No.168 2020年11月

酸素ポンベの開栓の未確認

事例 1

看護師は、酸素4L/分投与中の患者をCT検査室に搬送した。酸素ポンベから検査室の中央配管の酸素に切り替え、酸素ポンベのバルブ(元栓)を閉めた。検査終了後、診療放射線技師は酸素ポンベの開栓を確認せず、中央配管から酸素ポンベに切り替えた。看護師が検査室に行くと、患者のSpO₂値は75%に低下していた。酸素ポンベを確認すると、バルブ(元栓)が開いていなかった。

事例 2

看護師は、酸素3L/分投与中の患者を血管造影室に搬送するために酸素ポンベを準備し、流量設定ダイヤルを操作して酸素の流出を確認後、バルブ(元栓)を開いた。その際、圧力調整ダイヤルに設定した数値を放出しなかったため、圧力計の表示値は10MPaのままであった。出射する際、流量設定ダイヤルを3L/分に合わせると酸素が出る音が聞こえなかった。開栓していると思い込んだ、血管造影室に移動中、患者のSpO₂値が71%に低下した。酸素ポンベを確認すると、バルブ(元栓)を開けていなかったことに気付いた。

事例が発生した医療機関の取り組み

- 酸素ポンベ使用時は、バルブ(元栓)が開いていることを確認してから酸素の流量を調整する。

上記は一例です。施設に合った取り組みを検討してください。

取り組みのポイント

酸素ポンベ使用時は、①バルブ(元栓)、②圧力計、③流量設定ダイヤルを確認する。(総合評価部会)

※この医療安全情報は、医療事故情報収集等事業(厚生労働省補助事業)において収集された事例をもとに、本事業の一環として総合評価部会委員の意見に基づき、医療事故の発生予防、再発防止のために作成されたものです。本事業の趣旨等の詳細については、本事業ホームページをご覧ください。http://www.med-safe.jp/ ※この情報の作成にあたり、作成時における正確性については万全を期しておりますが、その内容を将来にわたり保証するものではありません。 ※この情報は、医療従事者の裁量を制限したり、医療従事者に義務や責任を課す目的で作成されたものではありません。

公益財団法人 日本医療機能評価機構 医療事故防止事業部
〒101-0061 東京都千代田区神田三崎町1-4-17 東洋ビル
電話: 03-5217-0252(直通) FAX: 03-5217-0253(直通)
http://www.med-safe.jp/

医療事故情報収集等事業

公益財団法人 日本医療機能評価機構

医療安全情報 No.169 2020年12月

持参薬の処方内容を継続する際の処方・指示漏れ

入院時、持参薬処方書の情報や確認が不足したことにより、持参薬の処方内容を継続するための処方・指示が漏れた事例が9件報告されています(集計期間:2017年1月1日~2020年10月31日)。この情報は、第61回報告書「分析テーマ」で取り上げた内容をもとに作成しました。

持参薬の処方内容を継続するための処方・指示が漏れたことにより、患者に影響があった事例が報告されています。

要因	処方・指示が漏れた薬剤名*	主な背景
持参薬処方書の情報の不足	リクシアナ錠	医師は、患者が持参していない薬剤があることに気付かず、持参した薬剤のみで持参薬処方書を作成した。
	チラーレン錠	患者が持参していない薬剤は持参薬処方書に登録せず、薬剤師はカルテに記載したが、医師は持参薬処方書のみ確認した。
	アトルvastatin錠 トリコロールメチアジド錠	
持参薬処方書の確認不足	フロセミド錠	医師は持参薬処方書が作成される前に処方した。
	タケルG配合錠 エフィエント錠	医師は、持参薬処方書が病棟に届くのが遅いため、確認しなかった。
	コート川錠	医師は持参薬処方書の内容を見落としした。

※薬剤・用量を勘違いしています。
*持参薬処方書4、医師欄によって持参薬処方書、持参薬処方書など様々な名称が用いられています。

事例が発生した医療機関の取り組み

- 患者が持参した薬剤だけでなく、薬歴が分かる複数の情報で現在服用中の薬剤を確認する。
- 医師は、持参薬処方書を確認して処方や指示をする。
- 多職種で持参薬の継続や中止の確認ができる仕組みを構築する。

上記は一例です。施設に合った取り組みを検討してください。

※この医療安全情報は、医療事故情報収集等事業(厚生労働省補助事業)において収集された事例をもとに、本事業の一環として総合評価部会委員の意見に基づき、医療事故の発生予防、再発防止のために作成されたものです。本事業の趣旨等の詳細については、本事業ホームページをご覧ください。http://www.med-safe.jp/ ※この情報の作成にあたり、作成時における正確性については万全を期しておりますが、その内容を将来にわたり保証するものではありません。 ※この情報は、医療従事者の裁量を制限したり、医療従事者に義務や責任を課す目的で作成されたものではありません。

公益財団法人 日本医療機能評価機構 医療事故防止事業部
〒101-0061 東京都千代田区神田三崎町1-4-17 東洋ビル
電話: 03-5217-0252(直通) FAX: 03-5217-0253(直通)
http://www.med-safe.jp/

医療事故情報収集等事業

医療安全情報 No.169 2020年12月

持参薬の処方内容を継続する際の処方・指示漏れ

事例 1

患者は心房細動のためリクシアナ錠を服用していた。入院時、薬剤師は患者が持参した薬剤を持参薬処方書に登録したが、患者が持参していなかったリクシアナ錠に気付かなかった。医師は、持参薬処方書を確認して処方した。7日後、下肢に動脈血栓症を認め、リクシアナ錠の処方漏れが判明した。

事例 2

患者は慢性心不全のためフロセミド錠を服用していた。入院時、医師は持参薬処方書による報告を待たずに薬剤を処方し、その際、フロセミド錠の処方漏れが判明した。その後、薬剤師での持参薬の鑑別が終了し、持参薬処方書が作成された。処方された薬剤が病棟に届いた際、漏れがないか誰も確認しなかった。フロセミド錠を服用しなかったことで患者の心不全が悪化した。

事例が発生した医療機関の取り組み

- 患者が持参した薬剤だけでなく、薬歴が分かる複数の情報で現在服用中の薬剤を確認する。
- 医師は、持参薬処方書を確認して処方や指示をする。
- 多職種で持参薬の継続や中止の確認ができる仕組みを構築する。

上記は一例です。施設に合った取り組みを検討してください。

※この医療安全情報は、医療事故情報収集等事業(厚生労働省補助事業)において収集された事例をもとに、本事業の一環として総合評価部会委員の意見に基づき、医療事故の発生予防、再発防止のために作成されたものです。本事業の趣旨等の詳細については、本事業ホームページをご覧ください。http://www.med-safe.jp/ ※この情報の作成にあたり、作成時における正確性については万全を期しておりますが、その内容を将来にわたり保証するものではありません。 ※この情報は、医療従事者の裁量を制限したり、医療従事者に義務や責任を課す目的で作成されたものではありません。

公益財団法人 日本医療機能評価機構 医療事故防止事業部
〒101-0061 東京都千代田区神田三崎町1-4-17 東洋ビル
電話: 03-5217-0252(直通) FAX: 03-5217-0253(直通)
http://www.med-safe.jp/

北海道臨床工学技士会メーリングリスト参加申し込みのお願い

技士会の情報網拡充のためメーリングリストを作成しておりますので是非ともご参加下さい。

当会運営情報や学会、セミナーの案内など重要な情報を配信します。

また、災害発生時には、情報収集し共有する手段としての活用を検討しております。

技士会の情報網拡充のため、是非ともご参加ください。



公益社団法人 北海道臨床工学技士会
Hokkaido Association for Clinical Engineers

ここをクリック

HOME	新着情報	事業報告	入会・退会案内	お問い合わせ	会員登録
技士会概要	会員情報広報	財政委員会	メーリングリスト	会員専用相談窓口	責任経理保険のご案内
安全委員会	学術委員会	広報委員会	退会案内	教育委員会	公益事業推進委員会
危機管理委員会	ロボット学術作業部会	寄付のお願い	連絡/パン	マスコット掲載、その他	AED日常点検講習申込
Welcome Flash	地方技士会活動	29th HACE	PHDAメディアナビ	リンク	家人情報

主報・共催学会・研修会・セミナーおよび連絡事項

- 平成31年3月10日(日) 手術室安全セミナー 100R札幌遠征センター3階会議室 参加費無料
- その他関連学会・研修会・セミナーの関連情報
- 平成31年3月16日(土) 第48回CVIT北海道地方会 コメディカル学術集会 ロイトン札幌
- 2019年4月14日(日) 第95回北海道遠征講習会 札幌コンベンションセンター
- 2019年4月14日(日) 第3種H2技術実力検定試験講習会 札幌医学技術福祉産科専門学校
- 2019年6月8日(土) ~9日(日) 第19回日本心臓ペースメーカーデバイスフォローアップ研究会 福岡国際会議場
- 2019年8月31日(土) CEセミナー(日本集中治療学会第3回北海道支部学術会同日開催) 札幌コンベンションセンター

技士会関連情報

※申込みは、当会ホームページの「メーリングリスト」よりお願いいたします。

《メディカルオンライン学会誌 無料閲覧サービスのご案内》

「北海道臨床工学技士会会誌」に掲載された過去の論文を電子化し株式会社メテオが提供する文献検索サイト、メディカルオンラインで閲覧することが可能です。

2020年度アカウントについて(2021年3月末日まで有効)

当会専用 ID : 1100007199-05

パスワード : itdeu5di



当会雑誌名① : 北海道臨床工学技士会会誌

雑誌 URL :

<http://mol.medicalonline.jp/archive/select?jo=ey2rinsy>

雑誌 URL へ接続しますと、北海道臨床工学技士会会誌のアーカイブ画面へ遷移します。画面右側の会員認証欄に上記専用 ID/パスワードを入力後、会誌の閲覧が可能となります。

学会誌 閲覧方法

学会誌無料閲覧サービスをお申込みいただきありがとうございます。
閲覧方法(手順)について、ご説明させていただきます。

- 雑誌名URL:<http://mol.medicalonline.jp/>***** インターネット上で雑誌名URLにアクセスすると、メディカルオンライン掲載中の貴学会誌アーカイブが表示されます。
- 学会誌専用アカウント(ID+PW)でログインを行い、閲覧したい番号をクリックします。
- 論文タイトルが表示されますので、ご覧になりたい「アブストラクト」、「全文ダウンロード」をクリックしてください。

学会誌アーカイブ

論文タイトル

アブストラクト

全文PDF

メディカルオンラインでの検索は自由。
他学会誌・商業誌はアブストラクトのみ無料で閲覧できます。

*ご利用の際は、「Medical*Online会員登録」に準じます。
<http://www.mol.medicalonline.jp/>
一定期間個人利用に論文ダウンロードした場合は、該当の端末でのご利用を一時停止させていただきます。また、サイト内に広告が表示される場合がございますので予めご了承下さい。



テトラグラフは、患者の筋弛緩状態を確認するモニターです。

- ▶ 刺激電極と測定電極が一体型の為、装着が容易
- ▶ 術式によらず安定した測定が可能
- ▶ 神経刺激により誘発された活動電位を記録



神経探知刺激装置

テトラグラフ FTG 2001

医療機器承認番号: 30100BZX00077000
販売名: テトラグラフ
高度管理医療機器 特定保守管理医療機器



フクダ電子北海道販売株式会社 本社 〒060-0013 北海道札幌市中央区北13条西17-1-35 TEL.(011)737-3171(代)

フクダ電子株式会社 お客様窓口 (03)5802-6600 受付時間:月~金曜日(祝祭日、休日を除く)9:00~18:00

フクダ電子

検索

●函館営業所 ●旭川営業所 ●釧路営業所 ●帯広出張所 ●北見出張所

New

多用途透析用監視装置
DCS-200Si
高度管理医療機器 / 特定保守管理医療機器 医療機器承認番号: 23100BZX00067000



日機装株式会社
本社 〒150-6022 東京都渋谷区恵比寿4丁目20番3号 TEL:03-3443-3751 FAX:03-3473-4965

改正医療法
施行規則対応

**ME機器チェックと
機器管理システムが連動!**

日本語ソフトとの連携で、
簡単・効率的にテスト!

院内ME機器チェックとME機器管理システムが連動し、保守・点検時に測定した各種データやレポートを、自動的に電子データにて管理! 同一システム上で精度管理と機器管理が行えます。

- 機器の運用情報を可視化
- オートテスト・自動判定機能
- タグを使用し簡単所在管理
- テストレポート自動作成・管理


ME機器管理システム
Me-ARC

METS 株式会社 メッツ TEL (03) 3888-8445
〒120-0036 東京都足立区千住仲町1-7 sales@mets-tokyo.jp www.mets-tokyo.jp

ME機器チェック

汎用超音波画像診断装置
ニプロイコー[®]

- PICC挿入用として開発した製品になります。
- 画面と穿刺部位を同一視野に入れることが可能です(短軸時)。
- 小型軽量 重量約230g、長さ146.2mm、幅75mm、厚さ25mm
- ケーブルレス プローブは本体と一体化



医療機器承認番号: 230AABZX00103000
特定保守管理医療機器 管理医療機器 (クラスII)

NIPRO
製造販売 ニプロ株式会社
大阪市北区本庄西3丁目9番3号
(資料請求先) 企画開発技術事業部
ホスピタルケア商品開発・技術営業部
TEL: 06-6373-0563

2019年11月作成

株式会社 竹山
Medical Support Service Provider

血液浄化 低侵襲機器 内視鏡
整形外科 「専門領域に特化した支援・サポート」 眼科
脳神経外科 ニースにお応えするため、それぞれの診療・治療に
特化した専門担当部門を設けています。 テクニカルサポート
循環器 循環器外科 画像診断機器

株式会社 竹山
代表取締役社長 土田 拓也
本社/〒060-0006 札幌市中央区北6条西16丁目1番地5 ☎011-611-0100(内線) http://www.takeyama.co.jp
●3ヶ所がかりカナル・インジケター・ワイルドグラス/札幌5号ビル11階西14丁目1番1号(株)カナル ☎011-700-5833 http://www.takeyama.co.jp/villageplus/

充実した拠点網によるきめ細やかな営業体制

札幌圏	中央支店: ☎011-859-8714	北支店: ☎011-859-8715	新札幌支店: ☎011-859-8717
	学芸支店: ☎011-859-8712	札幌支店: ☎011-859-8713	市川支店: ☎011-859-8716
	札幌センター: ☎011-859-8711	札幌センター: ☎011-676-6263	
道央・道南圏	富良野支店: ☎0143-45-1221	苫小牧支店: ☎0144-53-2101	小樽支店: ☎0134-29-4524
	岩見沢支店: ☎0123-25-0992	留萌支店: ☎0138-83-5000	
道東・道北圏	釧路支店: ☎0154-25-2241	北見支店: ☎0157-31-3224	帯広支店: ☎0155-35-5800
	旭川支店: ☎0165-73-3011	空知支店: ☎0125-54-3465	道北支店: ☎01654-3-9955
首都圏	東京支店: ☎03-3814-0103	横浜営業所: ☎045-232-3310	

経験と実績から生まれたME機器管理システム
HCSMA Version 7
Hospital Management System



WEBアプリケーション フルモデルチェンジ

位置情報検知システム
HOSBE



位置情報検知システムは、Beaconから送信されるBLE (Bluetooth Low Energy) の電波をレシーバーで受信することで位置情報を把握するシステムです。

針刺し防止機能付き止血弁内蔵透析用留置針
Happycath C-PRO

- フルカバータイプのセーフティ機能
- 多数回弁の採用により、
圧迫止血や鉗子を用いたクランプ操作が不要



メディキット株式会社

発売元：メディキット株式会社 〒113-0034 東京都文京区湯島 1-13-2 TEL.03-3839-0201
 製造販売元：東郷メディキット株式会社 〒883-0062 宮崎県日向市大字日知屋字龜川 17148-6 TEL.0982-53-8000
<http://www.medikit.co.jp/> <http://www.togomedikit.co.jp/>

医療機器承認番号：21400BZZ00343000 販売名：ハッピーキャスV

AsahiKASEI

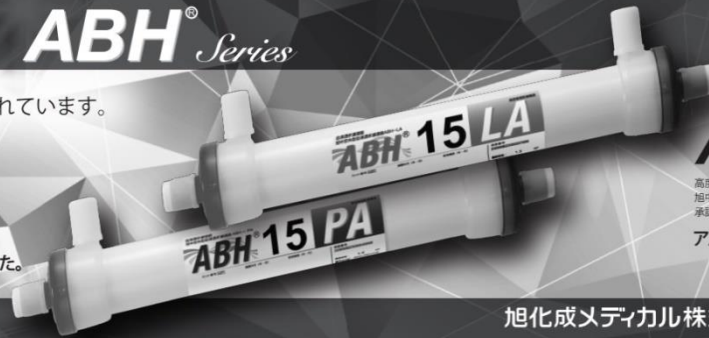
ABH[®] Series

生体適合性及び抗血栓性に優れています。

ABH[®]-PA

高度管理医療機器 血液透析濾過器
 旭中空糸型血液透析濾過器ABH-PA
 承認番号 22900BZX00045000

中空糸と容器設計の最適化を図りました。



ABH[®]-LA

高度管理医療機器 血液透析濾過器
 旭中空糸型血液透析濾過器ABH-LA
 承認番号 23000BZX00337000

アルブミンの漏出を抑えたタイプです。

旭化成メディカル株式会社

www.asahikasei-medical.co.jp
 No.2019.3-2783_180x50_1C

あなたの勇気で救える命 ~AED(自動体外式除細動器)~

AED(自動体外式除細動器)は、音声ガイダンス指示に従うだけで、初めての人にも簡単に使えるように設計されています。駅構内、学校、病院、社会福祉法人、商業施設など様々な場所にAEDは設置されており、もしもの時の救える命のために、AEDをご検討中の方はお気軽にお問い合わせ下さい。



最新医療機器と最新知識の提供を目指す

株式会社アクティブメディカル 代表取締役 山田 誠

〈本社〉〒113-0024 東京都文京区西片1丁目15番15号KDX春日ビル5階

TEL 03-5842-3015 FAX 03-5842-3016

〈支店〉西東京/横浜/千葉/埼玉/札幌/旭川/帯広/室蘭/釧路 URL <http://www.actg.co.jp/medical/>



AED (自動体外式除細動器)
i-PAD CU-SP1

TORAY

Innovation by Chemistry

生体適合性を追求した
 モイストタイプ ヘモダイアフィルター。



トレライト[®]HDF

NVF

販売名:トレライト[®]HDF
 一般的名称:血液透析濾過器
 医療機器承認番号:22800BZX00367000
 医療機器区分:高度管理医療機器

販売業者

東レ・メディカル株式会社
<http://www.toray-medical.com/>

製造販売業者

東レ株式会社

北海道臨床工学技士会ニュース

広報担当理事	旭川リハビリテーション病院	臨床機器管理課	木村吉治
広報委員長	旭川赤十字病院	臨床工学課	奥山幸典
編集委員	旭川医療センター	統括診療部	本手 賢
	旭川医科大学病院	診療技術部	南谷克明
	旭川リハビリテーション病院	臨床機器管理課	東 俊輔
	旭川厚生病院	臨床工学技術科	小玉麻里菜

印刷

株式会社 プリントパック

<http://www.printpac.co.jp/>